



大 幼



令和6年度
園長だより No.2
令和6年5月31日

新設、なかよしタイム

今年度から本園の研究方針が大きく変わりました。昨年度までは、「数の世界」と称して、子どもたちが、生活や遊びの中にある数量や図形を感じ、対話を通して広げていく保育のあり方を研究してきました。

今年度は、子どもたちの遊びの空間や時間や仲間（いわゆる3間）を開放し、子どもの主体的な遊びを支える保育はどうあるべきかという研究に取り組んでいます。そのため、異年齢でも主体的な関りが創れるような「なかよしタイム」という呼称を設けました。



6月8日(土)には、多くの教育関係者にその一部を見ていただき、今後その意見を紡いでいきたいと思ひます。



採れたてのピワはどんな味(年長)

もぎたてのピワを食す。園庭にあるからこそ叶うこの大胆な行動。クリアしないといけない課題はあるものの、この味は附属幼稚園の味としてどこかにしまっていてほしい。幼児期の思い出の一つにしてほしい。

私は、幼い時に、鶏を飼って食べたことがある。その様子はいつになっても忘れることはない。命をいただくとは尊いことで、我々は生きる上でその崇高な考えをどこかで捉えなければいけない。植物であっても、その恵みに感謝する営みは一緒だと思う。

「共にそだつ」ということ



5月の連休を終えると、今まで張りつめていたものがぶつんと切れてしまうと言われている。それだけこの5月は、子どもの様子をしっかりと把握しなければいけないとても大切な時期と言える。附属幼稚園では、5月の欠席が非常に少なかった。ご家庭でお子さんの体調管理や、心の調子を整えてくださっていることがありがたい。

さて、先日年少さん2人が葉っぱ集めをしていた。形や色の気に入ったものを夢中に集めていた。そこにたまたま立ち寄った子達が、葉っぱを持って行ってしまった。途端に葉っぱを集めていたAくんが、「うわ〜」と大きな声で泣き出した。その姿を見て、取った子たちが葉っぱを戻したので、事は収まったと思った。しかし、葉っぱ集めをしていたBくんが、友だちの虫かごに葉っぱをプレゼントしてしまった。すると、「うわ〜」とまたAくんが泣き出した。その後Bくんは、「葉っぱをとりに行こう」とAくんの手を引いてもう一度中庭に向かった。

私は、そばでそのやり取りを見ていたが、泣いている姿だけを見て働きかけたとしたら、子どもたちの関係性を誤解したと思う。子どもたちが共にそだつためには、今更ながらだが、じっくり腰を据えて、子どもの世界の中に身を置くことが大切だと感じた。